

温暖化防止ながれやまだより

温暖化防止ながれやま 会報
代表 平手 彰
流山市こうのす台 629-46
編集 石垣 幸子

第5号

平成24年1月号

新年明けましておめでとうございます



上の写真は、流山市の母なる川、江戸川である。かつてこの川は太日川と呼ばれる流路の定まらない川であったが、縄文の昔から豊かな森を育んできた川である。

江戸時代には水運の拠点として醸造業の発達により、流山はみりんで栄えた。いまはその盛んであった水運を卒業し、洪水を防ぐための高い堤防に守られた江戸川は、静かにその時を刻んでいる。この土手に立って川面を眺めていると、自然に帰り、心が洗われる思いがする。私たちが住むこの地球は水の惑星といわれる。

地球は太陽の周りを回る惑星の一つで、内側から3番目にあたり、太陽からちょうど良い距離にある。太陽から遠くて寒い星には水は氷の状態でしか存在できず、太陽から近くて暑い星には水蒸気でしか存在しない。地球は水が存在できる適度な温度と気圧を持っている星である。そして地球には大気があり、水があることによって生命が誕生したのである。地球は太陽系の中でたった一つの生命が存在する星である。

待ったなしの地球温暖化

去年は3月11日の東日本大震災に始まって、災害の多い年であった。去年の漢字は「災」かなと思っていたら、その災害を乗り越える人々の「絆」の方が大きかった。

夏には電力不足が叫ばれ、人々の中に省エネが根付いていった年であった。

南アフリカ共和国で開かれた気候変動枠組条約締約国会議（COP17）では、「京都を殺すな」と叫ばれたという。

この京都とは1997年京都に於いて採択された京都議定書と呼ばれる温室効果ガスを減らす国際約束で、今年12月に期限が終了する。地球は温室効果ガスからなる大気の層に覆われている。この大気の層によって地球の気温が適切な温度に保たれている。しかし化石燃料の燃焼や森林の伐採により二酸化炭素の排出量が劇的に増え、そのため大気の層が厚くなりすぎ、地表に熱がたまり、気温が上昇しつづけている。このまま地球の気温が上昇し続けると2100年には年平均気温が1.4℃から5.8℃も上昇すると予測されている。温暖化は単に気温が上昇するだけでなく、地球全体のバランスを崩してしまう。そのため熱波、干ばつや洪水といった異常気象を引き起こすといわれている。

この地球の危機に世界各国の代表が京都に集まって、温室効果ガスの削減目標を批准した。190を超える国が京都議定書を批准した。2011年の気候変動枠組条約国会議（COP17）において、各国それぞれの思惑があり、交渉は一向に進展していない。

米エネルギー省が発表した世界のCO2排出量（2010年速報値）は前年比約6%増の335億トンと過去最高の伸び率を記録した。気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は海面上昇や異常気象で毎年数百人が洪水被害に遭い、生物種の4割以上が絶滅と警鐘を鳴らしている。

地球の悲鳴はもう待ったなしである。一日も早い、公平かつ実効的な国際的枠組みの必要性はもちろんであるが、今私たちにできること、一層の省エネを推進し、低炭素社会の構築に努めなければならない。



流山市 市民まつり 開催

10月30日、流山運動公園と生涯学習センターにおいて、市民まつりが華やかに開催された。大勢の子どもたち、老若男女が来場し、展示物を見学したり、ゲームを楽しんだり、流山の特産物を賞味したりと楽しい一日となった。温暖化防止ながれやまは、生涯学習センター体育館の一隅をブースとして、環境紙芝居『地底王国カン王子の冒険』の上演と子供たちによる石鹸作りを開催した。紙芝居にはクイズを楽しみ子どもたちはご褒美をもらって大喜びであった。



環境紙芝居『地底王国のカン王子の冒険』（市民まつりで上演）



ここは地底王国の王室。連日、重臣たちが集まって会議をしている。

王様「この頃、この地底王国が暑い。どうしたことだろう？」

重臣「地上では、大地震が起こり、津波で大きな被害を被ったり、大きな台風に襲われ土砂崩れがあったり、と大変な出来事が次々と起こっていると報告を受けています」

重臣「大雨で洪水が多発している一方、雨が降らなくて砂

漠化が進んでいる地方もあると聞いています」

王様「だれか視察に行ってはくれぬか」とあたりを見回す。その時、王子が立ちあがって発言した。

王子「私が行きます。私を行かせてください。地上で何が起きているのかをしっかりと見て帰り、報告します」

王子は流山にやってくる。ゴーヤの葉が茂った町並みを見て思わず「きれいな街だなあ」

王子はオンダ家を訪ねる。この家の大学生のお兄ちゃんを紹介され、王子はこの物知りのお兄ちゃんから、いまの地球の様子を知ることになる。

オンダ家の室内が暑い。省エネ中だという。王子はなぜ省エネなのか、疑問に思う。



お兄ちゃんから優しい地球温暖化のメカニズムを聞くことにする。

地球には、広がる大地と海、それを包み込む空気、そしてそこに生きるたくさんの生き物。地球はそれらがすべてあることで成り立っている星である。水と空気と命があふれる星は、まだ見つかっていない。

地球の気温は大気中にある「温室効果ガス」によって生き物が生きていくのに適した温度に保たれている。太陽から届いた光は温室効果ガスによって一部が地表面を温め、余分な熱は大気中を抜けて、宇宙へと放出される。温室効果ガスとは、二酸化炭素 (CO₂)、メタン (CH₄)、フロンなどからなっているが、なかでも二酸化炭素が地球温暖化にはおおきな影響をもっている。



近年、石油や石炭といった化石燃料の使用が増えていった。それによって大気中に二酸化炭素が急に増加してしまった。それにより宇宙へ逃げていく熱が逃げにくくなり地表の温度が上昇してきているというわけ。**王子**「さっきテレビで、白クマが北極の氷山が溶けて困ると泣いていたよ。地球が温暖化するということはそういうことなんだね」

お兄ちゃん「地球の気温が上がると、南極や北極の氷が溶け、ヒマラヤなどの氷山も溶けると、海面が上がって、陸地が水没してしまう。そればかりではないんだよ。気温が上がって、海水の温度が上がると蒸発する水分が増える。そのために地球をめぐる水の仕組みが変化して気候に影響が出てくる。近頃、世界各地では異常気象の影響で洪水や集中豪雨が多発している。その一方渇水や干ばつで水不足に苦しむ地域もある」

王子「僕たちは石油や石炭なんか使わないよ。」

お兄ちゃん「今日はエネルギーについて考えよう。」

エネルギーとはものを動かしたり、変化させたりする原動力のことだ。そのもとには石油や石炭を燃やすことによるよ。私たちの便利で快適な暮らしは大量のエネルギーを使うことで成り立っているんだよ。

今電気のない生活は考えられないよね。また車にも乗るよね。食糧を外国から輸入する輸送費、家電製品



などの製造費などなどを含めると、一人ひとりの二酸化炭素（CO₂）の排出量はすごいよ」

王子「僕たちが豊かな生活を送ることができるようになったその一方で、かけがえのない地球を傷つけていたんだね。地底国に帰っても省エネを目指すよ。そして王様には CO₂ の排出が少ない自然エネルギーの導入を考えるように勧めるよ」

王子「いろいろ勉強になりました。流山は大好きな街です。また来ます」

おわり

<編集後記>

国会は消費税増税法案で大揺れである。国民の一人として、大震災と原発事故の復旧、社会保障や国家経済の安定を願っている。12月22日、国土交通相は八ツ場ダム建設再開を表明している。このダムは民社党によるムダ遣いの見直しで凍結されていた。なぜ八ツ場ダムが必要なのか、今になって再開はどういう意味があるのか、勉強不足の私にはわからないことばかりである。もしかしたら、自然エネルギー確保のため、水力発電を併設するのかな。なんて馬鹿なこと(?)を考えている。

(石垣幸子)